

支援者部門受賞者

精神障害を持つ親の子どもを支援、精神障害に対する正しい理解を深めていきたい

親&子どものサポートを考える会【三重県津市】

精神障害を持つ親の子どもを支援するとともに、社会に対して精神障害者への理解を深める啓発活動を行っている。三重大学看護学科の助教 土田幸子氏らが2009年9月に立ち上げ、精神看護学の教員、医師、精神看護専門看護師、保健師、臨床心理士、精神科ソーシャルワーカーらが中心となって運営。精神に障害を抱える親とその子どもの支援という視点や取り組みが新しく、新たな社会的課題を示したことが評価された。

●親の精神障害が子どもに与える影響に関する情報がなかった

日常で出会う“気になる”学生・子どものなかに、親が精神障害を持っている子らがあり、親の精神障害が子どもの成長に影響を与えているのではないかと考え調べてみたが情報がなく、精神障害を持つ親と暮らす子ども(既成人)へのインタビューなどを開始した。

●「精神障害を持つ親」の子が抱える課題

「病気について教えてもらっていたら、親のことを恨まなくてよかったのに。」

精神疾患に対する偏見が大きく、親の病気については、「家の中でも語られない」ことが多いという。子どもは何らか感づいているけれども、知らされておらず、訳がわからないまま相談することもできず、当事者である親のできなくなった役割を担い、親をケアしながら生活している。病気への知識の欠如により、自分のことばや態度が、親の症状を悪化させてしまったのではないかと自分を責めることもあるという。

病気がわからないときには、親を責める気持ちがあったが、この会に参加して親の立場を理解できるようになったと話してくれる人もいるという。

●子への支援～当事者の支援に欠かせない広がり

精神障害を持つ親および子ども、医療・学校関係者等を対象とした講演会、支援を考える学習会、検討会を開催。

また、精神障害を持つ親の子どもたちが語らう「子どもの集い・交流会」を開催、情報提供・精神的支援を行う活動を実施している。交流会には、統合失調症などの精神障害を持つ親の子ども(20代～60代)が、「語ってもいいんだ」「他の人の話も聞きたい」と集う。

●今夏「全国版の子どもの集い」初開催が目標

2013年夏に、東京での「全国版の子どもの集い」開催を目標に準備している。また、情報発信の方法も充実させていきたいと検討中。会の活動が広がることで、参加している子からも、自分の体験が役に立つことがうれしく、そのことがまた、力になっているとの声が寄せられたという。



世話人代表 土田幸子さん



親&子どものサポートを考える会
ミーティングの様子



講演会「支援をつなぐー自分たちに何ができるかー」
(2013年2月17日開催)における
子ども支援に関わる機関の職員による事例検討
シミュレーションの様子

【親&子どものサポートを考える会 WEB サイト】

<http://www.oyakono-support.com/>